



知ったつもりに
なれる用語集



平成27年6月
経済産業省 経済解析室

本資料の内容

本資料は以下の内容について記載しています。

【まずは統計の入口知識】

- そもそも・・・統計とは？！

【時々見聞きするものの意味】

- 統計表の見方1(統計表の各名称)、統計表の見方2(統計表の中の各種記号)、統計表の見方3(CYとFY)
- 公表される単位:月次と四半期と年平均
- 市場予測のコンセンサス

【計算や図表に関すること】

- 移動平均
- 前月比／前期比／前年比 (ぜんげつひ／ぜんきひ／ぜんねんひ)
- 寄与度／寄与率 (きよど／きよりつ)
- 季節調整
- 在庫循環図

そもそも・・・統計とは？！

■そもそも論ですが、復習の意味も込めて改めて・・・

「統計(とうけい)とは、現象を調査することによって数量で把握すること、または、調査によって得られた数量データのことである。」とされています。

すべて はかる
統 計
を

「統べる」は、「多くのものを一つにまとめる」という意味

「計る」は「ある基準をもとにして物の度合いを調べる」という意味

統計表の見方1 (統計表の各名称)

エクセル表あるいはCSVなどの形式になった以下のような表は「統計表」あるいは「結果表」と呼ばれています。

	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W			
3																				
4							①	第1表 就業状態・主な活動状態・従業上の地位・産業、年齢階級別15歳以上人口												
5					2014年10～12月		②	全国												
6							年齢階級	男女計									(万人)			
7									15～24歳			25～34歳			35～44歳					
8								③	総数	総数	15～19歳	20～24歳	総数	25～29歳	30～34歳	総数	35～39歳	40～44歳		
9							④	⑥	就業状態、主な活動状態、世帯主との続き柄、配偶関係、従業上の地位、産業	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
10																				
11																				
12									⑤	11083	1220	599	621	1408	664	744	1843	861	982	
13										6593	518	92	427	1200	579	621	1572	726	846	
14										うち 世帯主	2574	15	1	15	271	87	185	637	287	350
15										就業者	6373	489	88	401	1147	549	597	1523	704	819
16										従業者	6234	481	86	395	1110	535	576	1491	684	807
17										主に仕事	5295	333	30	303	1032	503	528	1307	607	700
18										通学のかたわらに仕事	146	137	54	83	6	5	1	2	1	1
19										家事などのかたわらに仕事	792	11	2	9	73	27	46	182	76	107
20										休業者	139	9	2	7	36	15	22	32	19	12
21										完全失業者	220	29	4	25	53	29	24	49	22	27
22										うち 世帯主	48	0	0	0	5	2	2	9	4	5
23										非労働力人口	4484	700	507	194	207	85	122	269	135	135
24										通学	688	660	498	162	24	18	6	2	2	1

- ①表題:どの事項について集計したかを示します。
- ②表章地域:どの地域を表章しているかを示します。
- ③表頭:表題のうち、統計表の上部の見出しの部分です。
- ④表側:表題のうち、統計表の左側の見出しの部分です。
- ⑤表体・こま(セル):表頭・表側に対応する数値が入る部分です。
- ⑥表頭側:表側の事項が何であることを表す部分です。

資料:総務省「労働力調査」より作成。

統計表の見方2(統計表の中の各種記号)

	A	B	C	D	E	F	BX	BY	BZ	CA	CB
1		実績	海外現地法人								
2		(円建て)									
3		地域×業種×項目									
4											
5											
6											
7											
8											
9		地域名	業種名	項目名	1-3	4-6	7-9	10-12			
255	4	アジア	02 繊維	201 有形固定資産額	5,537	3,532	3,224	P		4,692	
256	4	アジア	02 繊維	301 従業員数	72,739	71,736	70,385	P		70,222	
257	4	アジア	03 木材・パルプ・紙・紙	101 売上高	X	X	X	P		X	X
258	4	アジア	03 木材・パルプ・紙・紙	102 うち自国内向け	X	X	X	P		X	X
259	4	アジア	03 木材・パルプ・紙・紙	103 うち日本向け	X	X	X	P		X	X
260	4	アジア	03 木材・パルプ・紙・紙	104 うち第三国向け	X	X	X	P		X	X

				実績(百万円、人) 【公表値】			
				13			
8	地域名	業種名	項目名	4-6	7-9	10-12	1-3
729	8 欧州	08 鉄鋼	101 売上高	-	-	-	-
730	8 欧州	08 鉄鋼	102 うち自国内向け	-	-	-	-
731	8 欧州	08 鉄鋼	103 うち日本向け	-	-	-	-
732	8 欧州	08 鉄鋼	104 うち第三国向け	-	-	-	-
733	8 欧州	08 鉄鋼	本社向け輸出	-	-	-	-
734	8 欧州	08 鉄鋼	本社から輸入	-	-	-	-

	A	K	L	M	N	O
1						
2						
3						
4						
5						
6	年月	鉱物・金属材料	機械器具卸売業			
7		卸売業		一般機械器具	自動車卸売業	電気機械器具
8		Minerals & Metals	Machinery & Equipment	General Machinery & Equipment	Motor Vehicles	Electrical Machinery & Equipment
271	11	88.3	87.1	88.9	101.5	81.3
272	12	86.2	88.8	86.1	102.4	81.9
273	14年 1月	84.6	83.8	83.7	109.2	89.8
274	2	86.9	88.6	88.9	105.2	82.9
275	3	86.0	88.9	91.9	100.7	92.9
276	4	91.9	r 93.7	92.9	r103.6	90.7
277	5	92.9	r 94.7	88.8	r105.0	95.7
278	6	94.2	r 92.0	90.2	r 96.1	92.5
279	7	94.8	r 92.9	94.5	r 98.0	90.1
280	8	93.7	r 92.0	89.9	r 98.8	93.0
281	9	96.3	r 96.9	97.3	r 99.3	98.8
282	10	96.3	r 93.0	94.3	r 94.7	92.4
283	11	97.3	r 94.5	99.4	r 97.4	93.0
284	12	97.2	r 94.1	100.2	r 88.1	95.9
285	15年 1月	103.3	r 92.1	98.8	r 92.2	89.6
286	2	100.2	r 96.6	99.0	r 92.9	93.0
287	3	103.6	r100.8	100.9	r 94.6	106.0
288	4	98.8	96.9	100.6	94.9	96.7

- ①P印:速報値を意味し、翌月(期)には数値の変更があり得ます。
 - ②r印:前回公表値(速報値を除く)から変更があったものです。
 - ③X印:調査対象数(報告者)が1又は2であるため、個々の申告者の秘密が漏れる恐れがあることから秘匿したことを示します。
 - ④-印:実績のないものです。NGと書く場合もあります。
- 上記以外にも
- ⑤...印:調査又は集計していないため不詳の場合を指します。
 - ⑥0:表章単位未満を指します。

統計表の見方3 (CYとFY)

統計表で時々見かける「CY」と「FY」。

CY: Calendar Year の略。暦年(暦通り)を示す。つまり1~12月。

FY: Fiscal Year の略。年度を示す。つまり4月~翌年3月。

	A	B	C	D	E	F	G	I	J	K	L	M	N	P	Q	
1	項目: 総合原指数【年・年度・四半期】付加価値額生産(平成22年=100.0)															
2																
3	品目番号	品目名称	付加生産	2008CY	2009CY	2010CY	2011CY	2012CY	2013CY	2014CY	2008FY	2009FY	2010FY	2011FY	2012FY	2013FY
4	2000000000	鉱工業	10000	110.7	86.5	100	97.2	97.8	97	99	101	91.4	99.4	98.7	95.8	98.9
5	2A00000000	製造工業	9978.9	110.7	86.5	100	97.2	97.8	97	99	101	91.3	99.4	98.8	95.8	99
6	2AA0000000	鉄鋼業	391.1	110.9	76.8	100	97.3	97.5	97.9	98.9	97.4	85.6	100.4	97.5	96.4	99

資料: 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

2015 Calendar

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
4	5	6
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

7	8	9
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31



公表される単位：月次と四半期と年平均



統計結果の数字は一般的に「月次」、「四半期」、「年平均」という単位で公表されています。鉱工業指数や第3次産業活動指数では、毎月の結果(これを「月次」といいます。)と、毎月の値をもとに、四半期の値も計算しています。2014年4月～6月を2014年Ⅱ期と表示しています。また1年間の平均も計算しています。CYは暦年(1～12月)、FYは年度(4～3月)の値です。

例えば、鉱工業指数の「生産」では、原指数の4月～6月の平均、季節調整済指数の4月～6月の平均が、2014年Ⅰ期のそれぞれの値になります。(季節調整については後述する内容も参照して下さい。)

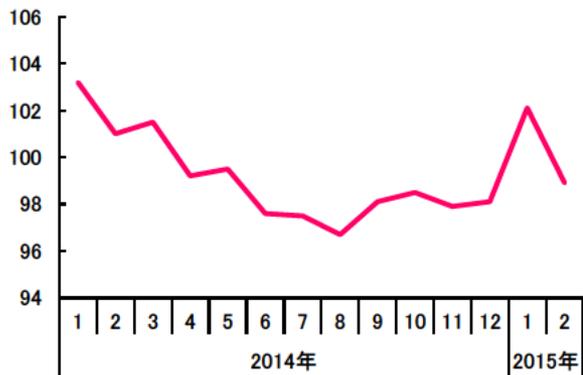
「出荷」「在庫率」も同じです。

「在庫指数」は、6月の値がⅡ期の値となります。

例：鉱工業(生産)・・・月次は季節調整済指数、四半期及び年は原指数を使用。

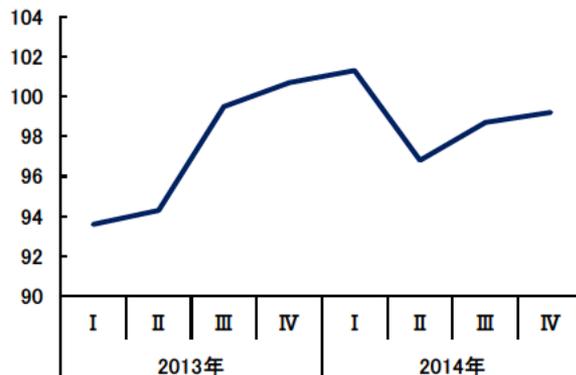
月次

(22年=100、季節調整済)



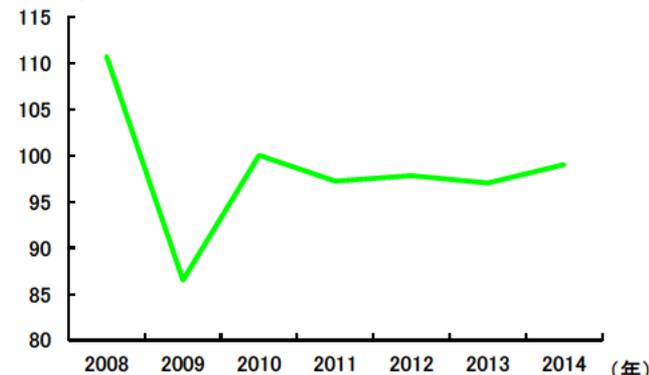
四半期

(22年=100)



年

(22年=100)

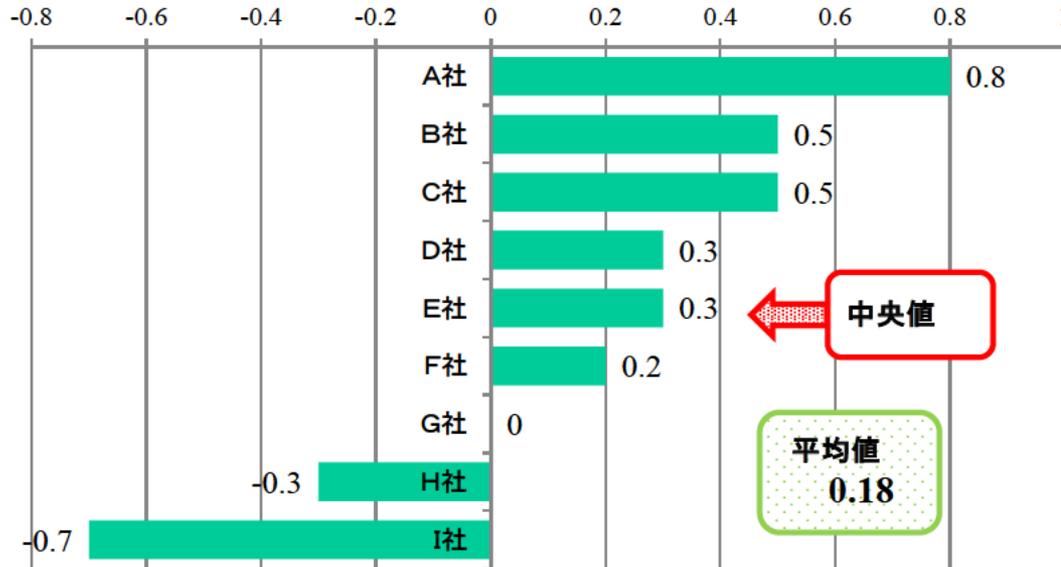


市場予測のコンセンサス

■市場予測の「コンセンサス」というときに使っているのは、予測値の「中央値」です。平均値ではないことに要注意です。多数決でもありません。

○×年○月の鉱工業生産指数の予測(%)

各社が先月と比べて今月の鉱工業生産指数が何%増えるか予測したものを予測の高い順から並べたもの



コンセンサス
0.3%



移動平均

■ 移動平均とは、時間的に連続するデータ(時系列データ)を見た時に、季節的な変動要因(例:クリスマス等)によって値の凸凹(急なの上昇・低下で山谷が大きくなる)が発生し、この凸凹などを取り除くために、前後いくつかの平均を取って数字の凸凹を緩やかにする方法です。平均の取り方としては一般的な平均、後方平均、前方平均といったものがあります。

例:平成26年6月について見る場合

	平成26年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
〇〇者数	5000	4800	3000	6000	5700	5400	5900	4900	5100	5200	5500	5000

①通常のア平均



6月を真ん中に含んだ前+後の計3か月分を平均

②後方3か月移動平均



6月を最後にして前2か月も加えた計3か月分を平均

③前方3か月移動平均



6月を最初にして後ろ2か月も加えた計3か月分を平均

前月比／前期比／前年比（ぜんげつひ／ぜんきひ／ぜんねんひ）

- 今の値を、①先月と比べたらどうなのか？
 - ②直前の四半期と比べたらどうなのか？
 - ③去年の今頃と比べたらどうなのか？ を見るために計算します。

①前月比の計算

$$\text{前月比} = \frac{(\text{今月の値} - \text{前月の値})}{\text{前月の値}}$$

②前期比の計算

$$\text{前期比} = \frac{(\text{今期の値} - \text{前期の値})}{\text{前期の値}}$$

③前年比の計算

$$\text{前年比} = \frac{(\text{今年の値} - \text{前年の値})}{\text{前年の値}}$$

※補足

今月の状況を先月と比較する場合は季節的な要因(例:クリスマス、入学・入社等)を取り除いた「季節調整済」の値と比較することになります。前期比も季節調整済の値と比較します。前年との比較については、原数値(あるいは原指数)との比較を行います。

例

単位：％

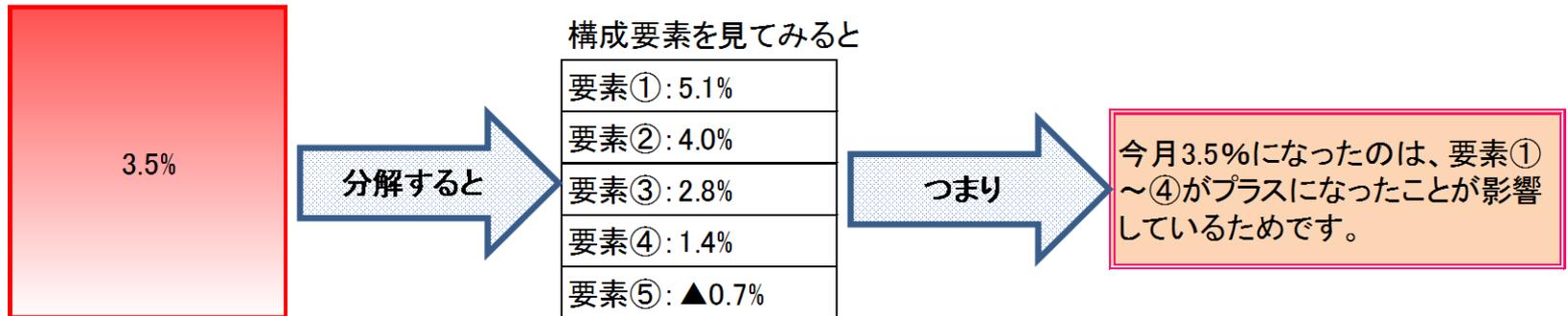
	2015年2月		2014年10-12月期	2014年
	前月比	前年同月比	前期比	前年比
第3次産業活動指数	0.3	▲0.4	1.0	▲0.8
広義対個人サービス	▲0.3	0.5	0.5	▲0.3
広義対事業所サービス	0.1	▲1.1	1.1	▲1.1

寄与度／寄与率（きよど／きよりつ）

■ 寄与度と寄与率とは次のような考え方です。

○寄与度：寄与度はあるデータを構成する項目の増減が、全体をどのくらい押し上げたり、押し下げたりしているかを表すもの。

○寄与率：寄与率は寄与度を構成比で見た指標であり、全体における変化（増減）を100とした場合の各構成する項目の変化（増減）を百分率（%）で表したもの。



寄与度の計算

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{今回の各構成要素} - \text{前回の各構成要素})}{\text{前回の全体の値}} \times 100$$

寄与率の計算

$$\text{寄与率} = \frac{(\text{今回の各構成要素} - \text{前回の各構成要素})}{(\text{今回の全体の数字} - \text{前回の全体の数字})} \times 100$$



季節調整



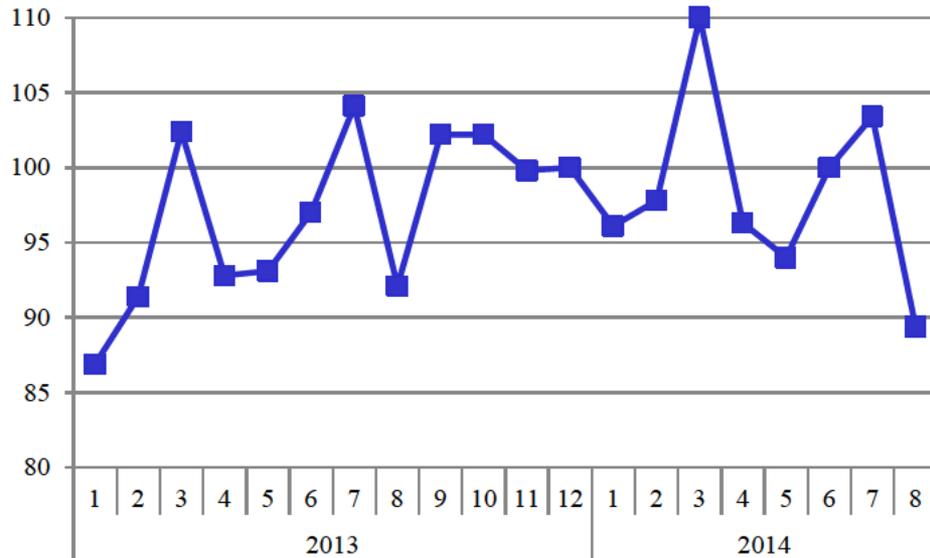
■レストランなら、2月はお客さんが少なくて、12月はクリスマスで忙しい、というように、毎年、月によって、お客さんが多い月とそうでない月があります。

お客さんの数を前の月からの増減だけでみると、最近、調子がいいのか悪いのかちょっと判断が付きません。

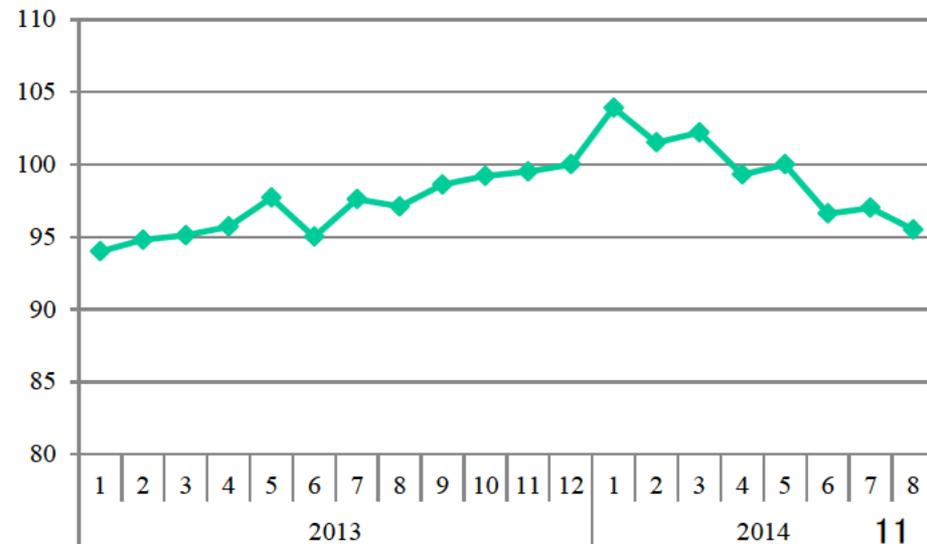
こうした「1年の中での傾向」を、過去のデータやその年の土日の数などから導いて、今月の実際の値に、ハンディをつけた後の、「季節調整値」を計算します。

季節調整値同士であれば先月と今月で比べることが可能となり、今どうなの？というのが分かるようになります。

季節調整前の鉱工業生産指数(原指数)



季節調整後の鉱工業生産指数(季節調整値)



在庫循環図

■ 在庫循環図は生産（あるいは出荷）と在庫の動きから、現在の経済の状態がどうなのかを見ようとする時に使われる図です。景気動向と、生産・出荷・在庫の関係はサイクルがあり、「在庫循環」と呼ばれます。例えばわかりやすく考えると、生産が増えてどんどん在庫が減っていけば景気がいいということになります。

